

**Oracle® ILOM スタートガイドファームウェア  
Release 3.2.x**

ファームウェアリリース 3.2.x

**ORACLE®**

Part No: E40286-03  
2015 年 5 月



## Part No: E40286-03

Copyright © 2014, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ, AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

### ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

### Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>)か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。



# 目次

---

このドキュメントの使用 .....	7
<b>Oracle ILOM - クイックスタート .....</b>	<b>9</b>
出荷時のデフォルト設定 .....	9
必須のセットアップタスク .....	11
▼ Oracle ILOM に接続する .....	11
▼ Oracle ILOM にログインする .....	12
▼ Oracle ILOM に新しいユーザーを追加する .....	14
オプションのセットアップタスク .....	17
▼ 管理対象デバイスの識別ラベルを設定する .....	17
▼ デフォルトのネットワーク接続設定を変更する .....	19
▼ リモート KVMS を使用してソフトウェアをインストールする .....	21
日常的な管理タスク .....	23
▼ システムステータスをチェックして未解決の問題を表示する .....	23
▼ 障害メッセージを手動でクリアする .....	24
▼ システム、イベント、および監査ログエントリを管理する .....	27
▼ 管理対象デバイスの消費電力メトリックを表示する .....	30
▼ 管理対象デバイスの電力割り当てを表示する .....	31
▼ SPARC の電力管理ポリシーを設定する .....	33
▼ 消費電力の統計と履歴を表示する .....	35
通常の保守タスク .....	36
▼ 管理対象デバイスのシステム情報を収集する .....	36
▼ 「Locator」LED を使用して管理対象デバイスを探す .....	37
▼ 管理対象デバイスの電源状態を変更する .....	38
▼ 管理対象デバイスの Oracle ILOM をリセットする .....	40
▼ 管理対象デバイスのファームウェアを更新する .....	41
▼ リモートシリアルコンソールからホスト OS にログインする .....	43
初期設定の FAQ .....	44



## このドキュメントの使用

---

- **概要** – Oracle サーバーおよびブレードシャーシをリモートで管理できるように Oracle ILOM ファームウェアの使用を開始する方法について説明します。より詳細な情報は、Oracle ILOM ドキュメントライブラリのその他の Oracle ILOM ガイドから入手できます。
- **対象読者** – 技術者、システム管理者、および Oracle 認定サービスプロバイダ。
- **必要な知識** – ユーザーにはサーバーハードウェアの管理経験があるべきです。

## 製品ドキュメントライブラリ

この製品および関連製品のドキュメントとリソースは [http://docs.oracle.com/cd/E37444\\_01](http://docs.oracle.com/cd/E37444_01) で入手できます。

## フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せ下さい。





# Oracle ILOM - クイックスタート

説明	リンク
出荷時のデフォルト	■ 9 ページの「出荷時のデフォルト設定」
必須のセットアップ	■ 11 ページの「Oracle ILOM に接続する」 ■ 12 ページの「Oracle ILOM にログインする」 ■ 14 ページの「Oracle ILOM に新しいユーザーを追加する」
オプションのセットアップ	■ 17 ページの「管理対象デバイスの識別ラベルを設定する」 ■ 19 ページの「デフォルトのネットワーク接続設定を変更する」 ■ 21 ページの「リモート KVMS を使用してソフトウェアをインストールする」
日常的な管理	■ 23 ページの「システムステータスをチェックして未解決の問題を表示する」 ■ 24 ページの「障害メッセージを手動でクリアする」 ■ 27 ページの「システム、イベント、および監査ログエントリを管理する」 ■ 30 ページの「管理対象デバイスの消費電力メトリックを表示する」 ■ 31 ページの「管理対象デバイスの電力割り当てを表示する」 ■ 33 ページの「SPARC の電力管理ポリシーを設定する」 ■ 35 ページの「消費電力の統計と履歴を表示する」
通常の保守	■ 36 ページの「管理対象デバイスのシステム情報を収集する」 ■ 37 ページの「「Locator」LED を使用して管理対象デバイスを探す」 ■ 38 ページの「管理対象デバイスの電源状態を変更する」 ■ 40 ページの「管理対象デバイスの Oracle ILOM をリセットする」 ■ 41 ページの「管理対象デバイスのファームウェアを更新する」 ■ 43 ページの「リモートシリアルコンソールからホスト OS にログインする」
FAQ	■ 44 ページの「初期設定の FAQ」

## 出荷時のデフォルト設定

プロパティ	デフォルト値	参照先
Alert notifications	SMTP クライアント: 有効 警告: 15 の構成可能な警告 消費電力通知: 無効	「Configuring Alert Notifications」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』
接続: DNS	DHCP を介した自動 DNS 有効	「Modifying Default Connectivity Configuration Properties」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for

出荷時のデフォルト設定

プロパティ	デフォルト値	参照先
接続: ネットワーク	IPv4: DHCP 有効, DHCP Client ID: なし IPv6: ステートレス自動構成有効	Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 「Modifying Default Connectivity Configuration Properties」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』
接続: シリアルポート	所有者: SP ボーレート: 9600 ボー フロー制御: なし	「Modifying Default Connectivity Configuration Properties」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』
日付と時間	タイムゾーン: GMT NTP サーバー: 無効 クロック: 未初期化	「Setting Properties for SP or CMM Clock」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』
管理アクセス	Secure Shell サーバー: 有効 Web および CLI セッション: 15 分でタイムアウト Web HTTP ポート: 80 Web HTTPS サーバー: 有効、ポート 443 Web サーバー: SSLv3、TLSv1 SSL 証明書: デフォルト証明書が提供される IPMI 状態: 有効 SNMP 状態: SNMPv3 有効、ポート 161 バナー状態: 無効	■ 「SNMP Overview」 in 『Oracle ILOM Protocol Management Reference for SNMP and IPMI Firmware Release 3.2.x』 ■ 「Server Management Using IPMI」 in 『Oracle ILOM Protocol Management Reference for SNMP and IPMI Firmware Release 3.2.x』
管理ステーション上の Storage Redirection CLI ソケットポート	ポート: 2121	「Using Remote KVM Consoles for Host Server Redirection」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』
ユーザー資格: ローカル	ルートアカウントログイン: root ルートアカウントパスワード: changeme ローカルアカウント: 10 の構成可能なアカウント SSH 鍵状態: 有効	■ 「Setting Up and Maintaining User Accounts」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 ■ 14 ページの「Oracle ILOM に新しいユーザーを追加する」
ユーザー資格: リモート	LDAP 状態: 無効 LDAP/SSL 状態: 無効 RADIUS 状態: 無効 Active Directory 状態: 無効	「Setting Up and Maintaining User Accounts」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』

## 必須のセットアップタスク

- 11 ページの「Oracle ILOM に接続する」
- 12 ページの「Oracle ILOM にログインする」
- 14 ページの「Oracle ILOM に新しいユーザーを追加する」

---

**注記** - このセクションの手順では、Oracle ILOM にアクセスするために必要な必須のセットアップタスクの概要について説明します。これらのタスクの実行に詳細な説明が必要な場合、「関連情報」セクションに記載されているガイドを参照してください。

---

### ▼ Oracle ILOM に接続する

次のいずれの手順を実行して、Oracle ILOM への物理的な管理接続を確立します。

- ローカルシリアル管理接続 - 手順 1
- ネットワーク管理接続 - 手順 2

---

**注記** - Oracle ILOM でもっとも信頼できるセキュアな環境を維持するには、ローカルシリアルポート、専用ネットワーク管理ポート、またはサーバーまたは CMM の標準データネットワークポートを常に信頼できる内部ネットワークまたはセキュアな専用管理およびプライベートネットワークに接続する必要があります。

---

#### 1. ローカルシリアル管理接続の手順

- a. コンソール (ワークステーションまたは端末) とサーバーまたは Oracle ブレードシャーシ モニタリングモジュール (CMM) の SER MGT ポート間をシリアルケーブルで接続します。

この物理的接続でサービスプロセッサ (SP) との最初の通信が行われます。端末デバイス通信プロパティを、9600 ボー、8 ビット、パリティなし、1 ストップビットに設定する必要があります。

---

**注記** - DTE から DTE の通信で送受信の信号が逆方向になる (転向する) 場合、null モデム構成が必要になります。システムに付属するアダプタケーブルを使用して、null モデム構成を実現します。

---

---

**注記** - Oracle Server 上の SER MGT ポートの物理的な場所の詳細は、サーバーに付属の Oracle ドキュメントを参照してください。たとえば、SPARC T5-2 サーバーの場合は、[http://docs.oracle.com/cd/E28853\\_01/html/E28854/pftig.z40022311288258.html#scrolltoc](http://docs.oracle.com/cd/E28853_01/html/E28854/pftig.z40022311288258.html#scrolltoc) にある追加のシリアル管理ポートの詳細を参照してください。

---

- b. 端末デバイスと Oracle ILOM SP または CMM の間に接続を作成するには、端末デバイスの Enter を押します。

## 2. ネットワーク管理接続の手順

- a. ネットワークスイッチとサーバーまたは CMM の NET MGT ポートを Ethernet ケーブルで接続します。

Oracle ILOM は、ネットワーク上の IPv4 DHCP サーバーおよび IPv6 ルーターの両方から、サーバー SP または CMM のネットワークアドレスを自動的に学習します。これらのネットワーク設定を変更する必要がある場合は、[19 ページの「デフォルトのネットワーク接続設定を変更する」](#)を参照してください。

- b. サーバー SP または CMM に割り当てられている IP アドレスを判定します。

割り当てられている IP アドレスを判定するには、ILOM SP または CMM へのローカルシリアル管理 (SER MGT) 接続を確立し、ILOM にログインしてから、show コマンドを使用して /network および /networkipv6 ターゲットの下のネットワークプロパティを表示します。

また、ネットワーク上の DHCP サーバーから IP アドレスを判定することもできます。

## 関連情報

- [44 ページの「初期設定の FAQ」](#)
- [12 ページの「Oracle ILOM にログインする」](#)
- [19 ページの「デフォルトのネットワーク接続設定を変更する」](#)
- [「Setting Up a Management Connection to Oracle ILOM and Logging In」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』](#)
- Oracle サーバー向け設置ガイド、ケーブルを接続して電源を投入する
- Oracle サーバー向け管理ガイド、x86 BIOS 設定を構成する

## ▼ Oracle ILOM にログインする

Oracle ILOM にログインするには、Oracle ILOM に対して確立した物理管理接続に基づいて、次の手順のいずれかを実行します。

- ローカルシリアル管理接続 - 手順 1
- Web ブラウザベースネットワーク管理接続 - 手順 2
- コマンド行 SSH ネットワーク管理接続 - 手順 3

---

**注記** - Oracle ILOM への初回ログインおよびアクセスを有効にするために、デフォルトの管理者アカウントとそのパスワードがシステムに用意されています。セキュアな環境を構築するため、Oracle ILOM への初回ログイン後、デフォルトの管理者アカウント (root) のデフォルトのパスワード (changeme) を変更する必要があります。このデフォルトの管理者アカウントが変更されている場合は、システム管理者に連絡して、管理者特権を持つ Oracle ILOM ユーザーアカウントを確認してください。

---

### 1. ローカルシリアル管理接続 - ログイン手順

- Oracle ILOM ログインプロンプト (->) で、アカウントに root、パスワードに changeme を入力します。

### 2. Web ブラウザベースネットワーク管理接続 - ログイン手順

- Web ブラウザに `http://ILOM_SP_or_CMM_ipaddress` と入力し、Enter を押します。**  
Oracle ILOM ログインダイアログが表示されます。
- アカウントに root、パスワードに changeme を使用して Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。**  
Oracle ILOM Web インタフェースが表示されます。

### 3. コマンド行 SSH ネットワーク管理接続 - ログイン手順

- Oracle ILOM CLI への SSH セッションを確立するには、端末ウィンドウを開きます。**
- デフォルト root アカウントを使用して Oracle ILOM にログインするには、次のように入力します:**  

```
$ ssh root@ILOM_SP_or_CMM_ipaddress
```

  
Oracle ILOM から root パスワードを求められます。
- パスワードプロンプトで changeme と入力します。**  
Oracle ILOM CLI プロンプト (->) が表示されます。

## 関連情報

- [「Security Action: Change Default root Account Password」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』](#)
- [11 ページの「Oracle ILOM に接続する」](#)
- [14 ページの「Oracle ILOM に新しいユーザーを追加する」](#)

- 「Logging In to Oracle ILOM Server SP or CMM」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』

## ▼ Oracle ILOM に新しいユーザーを追加する

### 始める前に

- Oracle ILOM では最大 10 のローカルユーザーアカウントを作成できます。  
Active Directory、LDAP、または RADIUS 用に Oracle ILOM を構成する手順については、この手順のあとの「関連情報」セクションを参照してください。
- サーバー SP または CMM のユーザーアカウントの管理には、CLI、Web インタフェース、SNMP インタフェース、または IPMI インタフェースを使用できます。次の手順では、Web インタフェースと CLI を使用してこのタスクを実行する方法を説明しています。SNMP または IPMI インタフェースを使用してこのタスクを実行する手順については、これらの手順のあとの「関連情報」セクションを参照してください。
- 次の手順は、root ユーザーとして Oracle ILOM にログインしていることを前提としています。root ユーザーのログイン手順については、[12 ページの「Oracle ILOM にログインする」](#)を参照してください。

新しいローカルユーザーアカウントを Oracle ILOM に追加するには、次の手順のいずれかを実行します。

- 新しいローカルユーザーアカウントの追加 - Web による手順 1
- 新しいローカルユーザーアカウントの追加 - CLI による手順 2

### 1. 新しいローカルユーザーアカウントの追加 - Web による手順

- a. Oracle ILOM の Web インタフェースで、「ILOM Administration」> 「User Management」> 「User Accounts」をクリックします。
- b. 「Users」テーブルで「Add」をクリックします。  
「Add User」ダイアログボックスが表示されます。
- c. ユーザーアカウントの名前と新しいパスワードを指定し、ユーザー役割プロファイルを選択します。  
Oracle ILOM では、Web インタフェースで Administrator、Operator、または Advanced という 3 つのユーザー役割プロファイルからいずれかを選択できます。各ユーザー役割プロファイルについては、[例1「Oracle ILOM ユーザーのプロファイルと役割の説明」](#)を参照してください。
- d. 新しいユーザーアカウントプロパティを追加するには、「Save」をクリックします。

## 2. 新しいローカルユーザーアカウントの追加 - CLI による手順

- a. Oracle ILOM CLI プロンプトで、次のいずれかを入力します。

```
—> create /SP/users/username password=password
```

```
—> create /CMM/users/username password=password
```

例:

```
-> create /SP/users/user5
```

```
Creating  
user...
```

```
Enter  
new password: *****
```

```
Enter  
new password again: *****
```

```
Created  
/SP/users/user5
```

- b. ユーザーアカウントに役割を割り当てるには、次のいずれかを入力します。

```
—> set /SP/users/username role=aucr
```

```
—> set /CMM/users/username role=aucr
```

例:

サーバー SP の user5 にすべての読み取りおよび書き込み権限を与えるには、次のように入力します。

```
-> set /SP/users/user5 role=aucro
```

```
Set  
'role' to 'aucro'
```

---

**注記** - aucro は、Administrator (管理者) プロファイルの設定と同等です。

---

Oracle ILOM でサポートされるユーザー役割と権限の詳細は、次の表を参照してください。

## 例 1 Oracle ILOM ユーザーのプロファイルと役割の説明

割り当て可能なプロファイルと役割	付与される権限
Administrator (管理者)	Administrator プロファイルは次の定義済みユーザー役割の権限を付与します: <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Admin (a)</li> <li>■ User Management (u)</li> <li>■ Console (c)</li> <li>■ Reset and Host Control (r)</li> <li>■ Read-Only (o)</li> </ul>
Operator (オペレータ)	Operator プロファイルは次の定義済みユーザー役割の権限を付与します: <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Console (c)</li> <li>■ Reset and Host Control (r)</li> <li>■ Read-Only (o)</li> </ul>
Advanced Roles (a u c r o s)	Advanced Roles プロファイルは Web インタフェースからのみ構成できます。このプロファイルを使用して、次の定義済みユーザー役割のいずれかの権限を付与します: <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Admin (a)</li> <li>■ User Management (u)</li> <li>■ Console (c)</li> <li>■ Reset and Host Control (r)</li> <li>■ Services (s)</li> <li>■ Read-Only (o)</li> </ul>
admin (a)	Admin (a) 役割は (有効のとき)、すべての Oracle ILOM システム管理機能への読み取りおよび書き込み権限を付与しますが、Admin (a) 役割にこれらのユーザー役割を追加で有効にする必要がある機能は例外です: User Management (u)、Reset and Host Control (r)、Console (c)、および Services (s)。
user (u)	User Management (u) 役割は (有効のとき)、すべての Oracle ILOM ユーザー管理認証機能への読み取りおよび書き込み権限が付与されます。
console (c)	Console (c) 役割は (有効のとき)、リモートコンソールのロックオプション、SP コンソール履歴ログオプション、リモートコンソール機能の起動と使用、Oracle ILOM Storage Redirection CLI の起動と使用といったリモートコンソール管理機能を実行するための読み取りおよび書き込み権限を付与します。
reset and host control (r)	Reset and Host Control (r) 役割は (有効のとき)、ブートデバイス制御のホスト、診断ユーティリティの実行と構成、SP のリセット、CMM のリセット、サブコンポーネントサービスアクション、障害管理アクション、SPARC TPM 管理アクション、および SNMP MIB ダウンロード操作といったホスト管理機能を実行するための読み取りおよび書き込み権限を付与します。
read-only (o)	Read-Only (o) ユーザー役割は、すべての Oracle ILOM 構成プロパティの状態を表示し、個々のユーザーアカウントに割り当てられたアカウントパスワードプロパティを変更するための読み取り専用権限を付与します。
service (s)	Services (s) ユーザー役割は (有効のとき)、オンサイトサービスが必要な場合に Oracle サービスエンジニアを支援する読み取りおよび書き込み権限を付与します。
administrator (aucro)	これらすべてのユーザー役割の組み合わせ (aucro) は (有効のとき)、Oracle ILOM で構成をバックアップおよび復元する機能を実行するための読み取りおよび書き込み権限を付与します。



## 関連情報

- 「Managing User Credentials」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』
- 「Manage User Accounts Using SNMP」 in 『Oracle ILOM Protocol Management Reference for SNMP and IPMI Firmware Release 3.2.x』

## オプションのセットアップタスク

- 17 ページの「管理対象デバイスの識別ラベルを設定する」
- 19 ページの「デフォルトのネットワーク接続設定を変更する」
- 21 ページの「リモート KVMS を使用してソフトウェアをインストールする」

---

**注記** - このセクションの手順では、Oracle サーバーまたは CMM を設定するときに、場合によって実行する必要があるオプションのセットアップタスクの概要について説明します。これらのタスクの実行に詳細な説明が必要な場合、「関連情報」セクションに記載されているガイドを参照してください。

---

## ▼ 管理対象デバイスの識別ラベルを設定する

### 始める前に

- Oracle ILOM で管理対象デバイスのシステム識別ラベルを設定するには、Admin (a) 役割権限が必要です。

Oracle ILOM サーバー SP または CMM の CLI または Web インタフェースを使用して、ホスト名、システム識別子、システム連絡先、およびシステム場所に識別ラベルを割り当てることができます。

- 識別ラベルを設定する - Web による手順 1
- 識別ラベルを設定する - CLI による手順 2

### 1. 識別ラベルを設定する - Web による手順

- a. SP または CMM の Web インタフェースで、「ILOM Administration」 > 「Identification」をクリックします。

「Identification Information」ページが開き、次を指定するためのフィールドが表示されます。

- **Hostname** - 管理対象デバイスのホスト名を入力します。ホスト名は最大 60 文字まで含めることができます。英字で始める必要があり、英数字、ハイフン、およびアンダースコア文字のみを含める必要があります。
- **System Identifier** - 管理対象デバイスのシステム識別子を入力します。システム識別子には、標準的なキーボードのキーを使用して最大 60 文字まで含めることができます (引用符は除きます)。
- **System Contact** - 管理対象デバイスのシステム連絡先を入力します。システム連絡先は、標準的なキーボードのキーを使用したテキスト文字列で構成できます (引用符は除きます)。
- **System Location** - 管理対象デバイスのシステム場所を入力します。システム場所は、標準的なキーボードのキーを使用したテキスト文字列で構成できます (引用符は除きます)。
- **Physical Presence Check** - このオプションが有効になっている場合は、ILOM パスワードを回復したりその他のセキュリティ関連アクションを実行したりするには、物理的プレゼンスを証明する必要があります。サーバーのある場所に居ることの証明方法については、使用しているプラットフォームのドキュメントを参照してください。プラットフォームのドキュメントで物理的プレゼンスについて説明されていない場合は、Oracle サービス担当者にお問い合わせください。

b. 「Save」をクリックして設定を有効にします。

## 2. CLI による手順 - 識別ラベルを設定する

a. サーバー SP または CMM に割り当てられた識別ラベルを表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SP|CMM
```

b. サーバー SP または CMM の識別ラベルを設定するには、次のように入力します:

- `-> set /SP|CMM hostname=text_string`
- `-> set /SP|CMM system_identifier=text_string`
- `-> set /SP|CMM system_contact=text_string`
- `-> set /SP|CMM system_location=text_string`
- `-> set /SP|CMM check_physical_presence=true|false`

ここでは:

SP|CMM が表示されたら、`set /SP` または `set /CMM` と入力します

`true|false` が表示されたら、有効にするには `true`、無効にするには `false` と入力します

## 関連情報

- 「Assigning System Identification Information」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』

## ▼ デフォルトのネットワーク接続設定を変更する

始める前に

- この手順は、Oracle ILOM サーバー SP または CMM へのローカルまたはネットワーク管理接続が確立されていることを前提としています。Oracle ILOM への物理ローカルまたはネットワーク接続を確立する方法については、[11 ページの「Oracle ILOM に接続する」](#)を参照してください。
- Oracle ILOM は、IPv4 DHCP および IPv6 ステートレスのデフォルトネットワーク設定で出荷されます。  
IPv4 のネットワークプロパティが DHCP に設定されているときは、SP または CMM は DHCP IPv4 サーバーから受信した DHCP 通知メッセージを使用して DHCP IP アドレスを自動的に構成します。  
IPv6 の自動構成プロパティが「Stateless」に構成されているときは、SP または CMM は IPv6 ルーター通知メッセージを使用して動的アドレスを自動的に構成します。さらに、SP または CMM はルーティングできない Link-Local IPv6 アドレスを常に生成します (ローカルサブネットから到達可能になります)。
- Oracle ILOM でネットワーク設定を変更するには、Admin (a) 役割権限が必要です。
- CLI または Web インタフェースを使用するか SNMP クライアントを使用することで、サーバー SP または CMM ネットワーク設定を Oracle ILOM で変更できます。CMM または SNMP クライアントからこのタスクを実行する手順については、これらの手順のあとの「関連情報」セクションを参照してください。

サーバー SP でデフォルトネットワーク設定を変更するには、次のいずれかを実行します:

- サーバー SP でデフォルトネットワーク設定を変更する - Web による手順 1
- サーバー SP でデフォルトネットワーク設定を変更する - CLI による手順 2

### 1. デフォルトサーバー SP ネットワーク設定を変更する - Web による手順

- a. 「ILOM Administration」 > 「Connectivity」 > 「Network」をクリックします。

b. デフォルト IPv4 ネットワークオプションを変更するには、次のいずれかを実行します:

- デフォルトの「IPv4 DHCP Client ID」のプロパティ値 (None) を変更するには、「DHCP Client ID」リストボックスで「sysid」を選択します。

「sysid」が「DHCP Client ID」として指定されている場合、DHCP クライアント (ILOM SP) は固有のシステム識別ラベル (構成されている場合) を使用して DHCP アドレスを DHCP サーバーから 取得します。「None」が「DHCP Client ID」として指定されている場合、DHCP クライアント (ILOM SP) はシステム MAC アドレスを使用して DHCP アドレスを取得します。

- 静的 IPv4 アドレスを割り当てるには、「Static IP」ラジオボタンをクリックして有効にし、静的 IPv4 アドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイアドレスを指定します。

c. IPv6 ネットワークオプションを変更するには、次のいずれかまたは両方を実行します。

- Autoconfig オプション: IPv6 autoconfig オプションに関連付けられたチェックボックスを選択またはクリアします。

- Static IP Address: 「Static IP Address」テキストボックスに、次の入力パラメータを入力して IPv6 アドレスとサブネットマスクアドレスを指定します。

<IPv6\_address>/<サブネットマスクアドレス長 (ビット単位)>

例: fec0:a:8:b7:214:4fff:fece:5f7e/64

d. 「Save」をクリックして変更を適用します。

## 2. デフォルトサーバー SP ネットワーク設定を変更する - CLI による手順

a. デフォルトの IPv4 dhcp\_clientid=none プロパティを変更して値を sysid に設定するには、次のように入力します:

```
->set /SP/network dhcp_clientid=sysid
```

「sysid」が「DHCP Client ID」として指定されている場合、DHCP クライアント (ILOM SP) は固有のシステム識別ラベル (構成されている場合) を使用して DHCP アドレスを DHCP サーバーから 取得します。「none」が「DHCP Client ID」として指定されている場合、DHCP クライアント (ILOM SP) はシステム MAC アドレスを使用して DHCP アドレスを取得します。

b. デフォルトの IPv4 dhcp プロパティを変更して静的 IPv4 アドレスのプロパティ値を設定するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/network pendingipdiscovery=static
```

```
-> set /SP/network pendingipaddress=<IPv4_address>
```

```
-> set /SP/network pendingipgateway=<gateway_address>
```

```
-> set /SP/network pendingipnetmask=<netmask_address>
```

- c. デフォルト IPv6 autoconfig=stateless プロパティを変更するには、/network/ipv6 ターゲットに移動して次のいずれかまたは両方を実行します。

- デフォルト autoconfig=stateless プロパティ値を変更するには、次のように入力します。-> set autoconfig=<property value>

<property value> には、stateless

stateless\_only、dhcpv6\_stateless、dhcpv6\_stateful、または disable のいずれかにできます。

- 静的 IPv6 アドレスを割り当てるには、次のように入力します。-> set pendingipdiscovery=<IPv6 address>/<subnet mask length in bits>

例: -> set pendingipdiscovery=fec0:a:8:b7:214:4fff:feca:5f7e/64

- d. すべての pending static IPv4 または IPv6 プロパティの変更を保存するには、/network ターゲットに移動して次のように入力します。

```
-> set commitpending=true
```

## 関連情報

- [44 ページの「初期設定の FAQ」](#)
- [17 ページの「管理対象デバイスの識別ラベルを設定する」](#)
- [「Modifying Default Connectivity Configuration Properties」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』](#)
- [「Configuring SNMP Settings in Oracle ILOM」 in 『Oracle ILOM Protocol Management Reference for SNMP and IPMI Firmware Release 3.2.x』](#)

## ▼ リモート KVMS を使用してソフトウェアをインストールする

### 始める前に

- Oracle ILOM Remote System Console (Plus) は SP Web インタフェースから利用できます。また、このコンソールには、キーボード、ビデオ、マウス、およびストレージというデバイスのリモートリダイレクション機能があります。

Oracle ILOM でストレージデバイスをリダイレクトする代替方法として、Oracle ILOM Storage Redirection CLI を使用できます。この機能を使用する手順については、この手順のあとの「関連情報」セクションを参照してください。

- Oracle ILOM Remote System Console (Plus) を操作するには、Console (c) 役割権限が必要です。
- ローカルシステムに Java Runtime Environment (JRE) がインストールされている必要があります。システムが Oracle ILOM 3.2.1 以降とともに出荷された場合は、JRE 1.6 をインストールする必要があります。または、JRE 1.5 をインストールする必要があります。

SP Web インタフェースから Oracle ILOM グラフィカルリモートコンソールを起動するには:

1. Oracle ILOM で提供されるデフォルト KVMS 設定が使用しているデスクトップ環境と一致することを検証します。
  - a. Web インタフェースのナビゲーションペインで、「Remote Control」>「KVMS」をクリックします。
  - b. 「KVMS Settings」ページで、ビデオリダイレクション状態が有効であることを確認してから、適切なマウスモードオプション (absolute または relative) が有効であることを検証します。

パフォーマンスを最適化するために、Oracle Solaris ベースオペレーティングシステムには通常は absolute モードが選択され、Linux ベースオペレーティングシステムには relative モードが選択されています。

ヒント - 管理対象サーバーとローカルデスクトップの間でキーボードまたはマウス入力を切り替えるには、**Alt+m** (マウスの場合) または **Alt+k** (キーボードの場合) を押します。
2. Windows Internet Explorer (IE) Web ブラウザユーザーの場合は、ローカルシステムで 32 ビット JDK ファイルを登録してから、Oracle ILOM Remote System Console (Plus) 機能を起動します。
  - a. Windows エクスプローラウィンドウで、「ツール」>「フォルダオプション」をクリックし、「ファイルの種類」タブをクリックします。
  - b. JNLP ファイルを選択し、場所を参照してから、「OK」をクリックします。
3. Oracle ILOM Remote System Console (Plus) を起動するには、「Remote Control」-->「Redirection」>「Launch Remote Console」をクリックします。

## 関連情報

- [「Using Remote KVMS Consoles for Host Server Redirection」](#) in 『Oracle ILOM Administrator’s Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』
- [43 ページの「リモートシリアルコンソールからホスト OS にログインする」](#)

## 日常的な管理タスク

- 23 ページの「システムステータスをチェックして未解決の問題を表示する」
- 24 ページの「障害メッセージを手動でクリアする」
- 27 ページの「システム、イベント、および監査ログエントリを管理する」
- 30 ページの「管理対象デバイスの消費電力メトリックを表示する」
- 31 ページの「管理対象デバイスの電力割り当てを表示する」
- 33 ページの「SPARC の電力管理ポリシーを設定する」
- 35 ページの「消費電力の統計と履歴を表示する」

---

**注記** - このセクションの手順では、システムを設定したあとに Oracle ILOM から実行することが推奨される日常的な管理タスクの一部について概要を説明します。これらのタスクの実行に詳細な説明が必要な場合、「関連情報」セクションに記載されているガイドを参照してください。

---

### ▼ システムステータスをチェックして未解決の問題を表示する

システム状態をモニターしたり未解決の問題を表示したりするために、Oracle ILOM CLI または Web インタフェースを使用できます。

- システムステータスをチェックして未解決の問題を表示する - Web による手順 1
- システムステータスをチェックして未解決の問題を表示する - CLI による手順 2

#### 1. システムステータスをチェックして未解決の問題を表示する - Web による手順

- a. SP または CMM の Web インタフェースからシステムステータスをチェックするには、「System Information」>「Summary」をクリックします。  
「Status」テーブルに表示されるサブシステムステータスメッセージを確認します。
- b. すべての未解決の問題を表示するには、「System Information」>「Open Problems」をクリックします。  
システムに未解決の問題が存在する場合、問題の詳細な説明が「Open Problems」表に表示されます。  
該当する場合は、メッセージ内の URL リンクをクリックすると、問題の詳細とシステム管理者に推奨される訂正処置が表示されます。

---

**注記** - Oracle ILOM は、サーバーコンポーネントまたは CMM 現場交換可能ユニット (FRU) の交換または修復が検出されると、「Open Problems」表内のメッセージを自動的にクリアします。

---

**注記** - 「Open Problems」表に表示される CMM 顧客交換可能ユニット (CRU) のメッセージは、訂正保守処置を実行したあとは手動でクリアするようにしてください。手順は、この手順のあとの「関連情報」セクションを参照してください。

---

## 2. システムステータスをチェックして未解決の問題を表示する – CLI 手順

- a. `/SP` または `/CMM` CLI ターゲットからシステムステータスをチェックするには、次のように入力します:

```
-> show /System
```

「Properties」で健全性の詳細を確認します。

- b. 報告されたサブシステムの問題の表出力を表示するには、次のように入力します:

```
-> show /System/Open_Problems
```

システムに未解決の問題が存在する場合、問題の詳細な説明が「Open Problems」表出力に表示されます。

該当する場合は、未解決の問題のメッセージに表示される URL を参照すると、問題の詳細とシステム管理者に推奨される訂正アクションが表示されます。

### 関連情報

- [24 ページの「障害メッセージを手動でクリアする」](#)
- 「Troubleshooting Oracle ILOM Managed Devices」 in 『Oracle ILOM User's Guide for System Monitoring and Diagnostics Firmware Release 3.2.x』
- 「Monitor and Manage System Power (SNMP)」 in 『Oracle ILOM Protocol Management Reference for SNMP and IPMI Firmware Release 3.2.x』
- 『Sun Blade モジュールシステムサービスマニュアル』のコンポーネントタイプとサービス分類

## ▼ 障害メッセージを手動でクリアする

### 始める前に

- 障害が発生している状態とは、Oracle ILOM 障害マネージャーによって 1 つ以上の問題が診断されているために、コンポーネントは存在するけれども使用できないか機能低下していることを示します。システムに対する追加の損害を回避するために、コンポーネントは無効にされています。



- Oracle ILOM 障害マネージャーは、「Open Problems」表内の、交換または修復された SPARC サーバーコンポーネント、x86 サーバーコンポーネント、および CMM 現場交換可能ユニット (FRU) の障害メッセージを自動的にクリアします。
- Oracle ILOM 障害マネージャーは、「Open Problems」表内の、交換または修復された CMM 顧客交換可能ユニット (CRU) の障害メッセージを自動的にクリアしません。
- この手順を実行するには Admin (a) 役割権限が必要です。

Oracle ILOM 障害管理シェルを起動して「Open Problems」表に表示されている障害メッセージを手動でクリアするには:

---

**注記** - 一部の Oracle サーバーおよびブレードシャーシシステムでは、レガシー Oracle ILOM 3.0 CLI /SYS ターゲットを使用して障害メッセージをクリアすることもできます。手順は、この手順のあとの「関連情報」セクションを参照してください。

---

**1. Oracle サービスに問い合わせた障害管理シェルを使用する許可を取得します。**

Oracle ILOM 障害管理シェルは Oracle の保守担当者がシステムの問題を診断するのに役立ちます。Oracle の保守担当者からそのようにリクエストされないかぎり、障害管理シェルでコマンドを実行しないようにしてください。

**2. SP または CMM CLI から障害管理シェルを起動するには、次のいずれかを入力します。**

```
start /SP/faultmgmt/shell
```

```
start /CMM/faultmgmt/shell
```

障害管理シェルコマンドプロンプト (faultmgmtsp>) が表示されます。

---

**注記** - 障害管理シェルを開始してから障害管理シェルを終了するまでは、障害管理シェル固有のコマンドのみを実行できます。サポートされている障害管理シェルコマンドを表示するには、help と入力します。

---

**3. 障害管理シェルプロンプトから障害状態を管理するには、次のように入力します。**

```
fmadm <sub-command>
```

fmadm は、Oracle ILOM 障害マネージャーで保守される障害状態を表示したり変更したりできる、障害管理構成ツールです。

---

**注記** - 障害管理構成ツールから障害のあるコンポーネントの一覧を表示するには、「fmadm faulty」と入力します。

---

**4. 障害が発生したサブシステムコンポーネントのメッセージを手動でクリアするには、次のいずれかのサブコマンドを発行します。**

**注記** - <FRU/CRU> は障害が発生したコンポーネントの名前に置き換えてください。<UUID> は割り当てられた汎用一意識別子に置き換えてください。構文例は、次のサブコマンド表のあの例を参照してください。

サブコマンド	説明
<b>acquit</b> <FRU/CRU>	Oracle ILOM Fault Manager に、指定された障害のあるコンポーネントが、検出されたどの障害イベントでも疑わしいとは見なされないことを通知します。fmadm <b>acquit</b> コマンドは、ドキュメントに記載された Oracle ハードウェア修復手順に指示があった場合にのみ使用するようになっています。
<b>acquit</b> <UUID>	uuid リソースによって識別される障害イベントを無視しても問題がないことを Oracle ILOM 障害マネージャーに通知します。fmadm <b>acquit</b> コマンドは、ドキュメントに記載された Oracle ハードウェア修復手順に指示があった場合にのみ使用するようになっています。
<b>replaced</b> <FRU/CRU>	指定された障害の発生した現場交換可能ユニットまたは顧客交換可能ユニットが交換されたことを Oracle ILOM 障害マネージャーに通知します。このコマンドは、Oracle ILOM 障害マネージャーが交換を検出できない場合に使用するようになっています。
<b>repaired</b> <FRU/CRU>	指定された現場交換可能ユニットまたは顧客交換可能ユニットが修復されたことを Oracle ILOM の障害マネージャーに通知します。fmadm <b>repaired</b> コマンドは、Oracle ILOM 障害マネージャーが、修復された FRU を検出できない場合に使用するようになっています。

#### サブコマンド構文例:

■ **fmadm repaired /SYS/MB/FM0**

■ **fmadm repaired /SYS/PS1**

■ **fmadm replaced /SYS/MB/FM0**

■ **fmadm replaced /SYS/PS1**

**注記** - 訂正保守処置を完了する前に障害のあるコンポーネントのメッセージをクリアした場合、Oracle ILOM 障害マネージャーは障害を再度診断し、Oracle ILOM の「Open Problems」表に障害メッセージを再表示します。

#### 5. 障害管理シェルを終了するには、次のように入力します:

**exit**

**注記** - 標準の Oracle ILOM CLI コマンドを実行するには、まず障害管理シェルを終了する必要があります。

## 関連情報

- 「Oracle ILOM 3.2.x CLI Namespace Targets on ManagedDevice」 in 『Oracle ILOM User's Guide for System Monitoring and Diagnostics Firmware Release 3.2.x』
- 23 ページの「システムステータスをチェックして未解決の問題を表示する」
- Oracle サーバーのサービスマニュアルのコンポーネントタイプとサービス分類

## ▼ システム、イベント、および監査ログエントリを管理する

### 始める前に

- トップレベルのシステムログは、関連操作のイベントログエントリのサブセットをより簡単な方法で提供します。特にこのログは、システムインベントリアクションおよびコンポーネントの健全性のステータスに関するサブシステムレベルの診断イベントを報告します。これらのイベントには、電源のオンとオフ、FRU 挿入および削除のほか、サービスが必要、警告、OK などのステータスイベントなどがあります。
- イベントログは、コンポーネントの追加や取り外し、コンポーネントの障害など、管理対象デバイスについての情報、警告、またはエラーメッセージを追跡します。ログに記録されるイベントのプロパティには、イベントの重要度、イベントプロバイダ (クラス)、イベントが記録された日付と時間などがあります。
- 監査ログは、ユーザーログイン、ログアウト、構成変更、パスワード変更など、インタフェース関連のすべてのユーザーアクションを追跡します。ユーザーアクションを監視するユーザーインタフェースには、Oracle ILOM Web インタフェース、CLI、障害管理シェル (captive shell)、制限付きシェル、SNMP および IPMI クライアントインタフェースが含まれます。
- Oracle ILOM でログエントリをクリアするには、Admin (a) 役割権限が必要です。

---

**注記** - Oracle ILOM は、ログエントリのタイムスタンプを取り込む際に UTC/GMT タイムゾーンをデフォルトで使用します。

---

Oracle ILOM ログエントリを管理するには、次の手順のいずれかを実行します。

- Oracle ILOM ログエントリを管理する - Web による手順 1
- Oracle ILOM ログエントリを管理する - CLI による手順 2

### 1. Oracle ILOM ログエントリを管理する - Web による手順

#### a. 次のいずれかを実行します:

- SP または CMM の Web インタフェースからシステムログエントリを表示するには、「ILOM System Information」 > 「System Log」をクリックします。

- SP または CMM の Web インタフェースでイベントまたは監査ログエントリを表示するには、「ILOM Administration」 > 「Logs」をクリックし、「Event」または「Audit」をクリックします。
- b. 表示されるイベントタイプをフィルタリングしたり、行やページの表示プロパティを制御したりするには、ログ表上部のコントロールを使用します。  
ログプロパティのフィルタリングの詳細は、ログページに表示される「More Info」リンクをクリックしてください。
- c. 表に表示されているすべてのログエントリをクリアするには、「Clear Log」をクリックします。  
確認のダイアログが表示されます。確認ダイアログで「OK」をクリックすると、エントリがクリアされます。

## 2. Oracle ILOM ログエントリを管理する - CLI による手順

- a. SP または CMM の CLI からログエントリを一覧表示するには、次のいずれかを実行します。

- システムログの場合、次のように入力します。

```
show /System/Logs/list
```

- イベントログの場合、次のいずれかを入力します。

```
show /SP/Logs/event/list
```

```
show /CMM/Logs/event/list
```

- 監査ログの場合は、次のいずれかを入力します:

```
show /SP/Logs/audit/list
```

```
show /CMM/Logs/audit/list
```

リストをスクロールするには、q キー以外の任意のキーを押します。

- b. ログ出力をフィルタリングするには、show コマンドを使用してフィルタプロパティの 1 つ以上の値 (Class, Type, Severity) を指定します。

例:

- 1 つのフィルタプロパティ、たとえば Class を使用します。

```
show /System/Logs/list Class==value
```

または

```
show /SP/CMM/logs/event|audit/list Class==value
```

- 2つのフィルタプロパティ、たとえば `Class` と `Type` を使用します。

```
show /System/Logs/list Class==value Type== value
```

または

```
show /SP|CMM/logs/event|audit/list Class==value Type==value
```

- すべてのフィルタプロパティ (`Class`、`Type`、および `Severity`) を使用します。

```
show /System/Logs/list Class==value Type==value Severity==value
```

または

```
show /SP|CMM/logs/event|audit/list Class==value Type==value  
Severity==value
```

`SP|CMM` には、`SP` または `CMM` と入力します。

- c. 表示されているすべてのログエントリをクリアするには、`clear=true` コマンドを使用します。

例:

```
set /System/Logs/clear=true
```

または

```
set /SP|CMM/logs/event|audit clear=true
```

`event|audit` には、`event` または `audit` のいずれかを入力します。

プロンプトが表示されたら、アクションを確定する場合は `y` と入力し、アクションを取り消す場合は `n` と入力します。

## 関連情報

- 「Managing Oracle ILOM Log Entries」 in 『Oracle ILOM User's Guide for System Monitoring and Diagnostics Firmware Release 3.2.x』
- 「Configuring Syslog for Event Logging」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』
- 「Setting Properties for SP or CMM Clock」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』
- 「View and Clear the Oracle ILOM Event Log」 in 『Oracle ILOM Protocol Management Reference for SNMP and IPMI Firmware Release 3.2.x』

## ▼ 管理対象デバイスの消費電力メトリックを表示する

### 始める前に

- 実電力消費メトリックは、管理対象デバイスが現在消費している入力電力ワット数を識別します。許容ピーク電力消費メトリックは、管理対象デバイスが消費できる最大電力ワット数を識別します。
- ターゲット制限消費電力メトリック (有効になっている Oracle の SPARC サーバーでのみ利用可能) は、デバイスが消費できる、ユーザー定義の電力ワット数 (またはパーセンテージ制限) を示します。
- 管理対象デバイス用の消費電力イベント通知を作成したり、SPARC サーバーでの電力制限を有効にしたりするには、これらの手順のあとの「関連情報」セクションを参照してください。

始める前に CLI または Web インタフェースから管理対象デバイスの電力ワット数メトリックをモニターするには、次の手順のいずれかを実行します。

- 消費電力をモニターする - Web による手順 1
- 消費電力を監視する - CLI による手順 2

### 1. 消費電力をモニターする - Web による手順

- a. SP または CMM の Web インタフェースから消費電力メトリックを表示するには、「Power Management」>「Consumption」をクリックします。

管理対象デバイスの消費電力ワット数値が「Actual Power」および「Peak Permitted Power」プロパティに表示されます。

管理対象デバイスが Oracle の SPARC サーバーの場合は、「Target Limit」の消費電力ワット数またはパーセンテージ値がその他の消費電力メトリックに加えて表示されます (事前に有効にしていた場合)。

- b. シャーシ内の各ブレードサーバーの実消費電力ワット数を CMM Web インタフェースから表示するには、「Power Consumption」ページの「Actual Power Details」リンクをクリックします。

---

注記 - 消費電力をモニターする機能は、サーバーにおけるこの機能の実装によって異なります。電源管理システムのサーバー固有の Oracle ILOM 動作については、サーバー管理ガイドまたは Oracle ILOM 補足マニュアルを参照してください。

---

### 2. 消費電力をモニターする - CLI による手順

- a. SP または CMM の CLI から消費電力メトリックを表示するには、次のいずれかを実行します。

- SP CLI の場合は、`show /SP/powermgmt actual_power` と入力します。

```
show /SP/powermgmt permitted_power
```

管理対象デバイスが Oracle の SPARC サーバーで、電力制限が有効になっている場合は、次のように入力します。

```
show /SP/powermgmt target_limit
```

- CMM CLI の場合は、`show /CMM/powermgmt actual_power` と入力します。

```
show /CMM/powermgmt permitted_power
```

## 関連情報

- 「[Setting Power Consumption Alert Notifications](#)」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』
- 「[Setting SP Advanced Power Capping Policy to Enforce Power Limit](#)」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』
- 「[Power Consumption Terminology and Properties](#)」 in 『Oracle ILOM User's Guide for System Monitoring and Diagnostics Firmware Release 3.2.x』
- 「[Monitoring the Power Consumption Interfaces \(SNMP\)](#)」 in 『Oracle ILOM Protocol Management Reference for SNMP and IPMI Firmware Release 3.2.x』

## ▼ 管理対象デバイスの電力割り当てを表示する

### 始める前に

- Oracle ILOM の電力割り当てプランは、管理対象デバイスの電力割り当て要件を表します。例:
  - **System Power Specification** – 「System Power Specification」表は、管理対象デバイスで設定されている消費電力プロパティに割り当てられた電力ワット数を示します。
  - **Per Component Power Map** – 「Component Power Map table」表は、Oracle ラック搭載型サーバーの場合に利用でき、管理対象デバイスの各コンポーネントに割り当てられた電力ワット数を示します。コンポーネントに設定されている電力上限、またはコンポーネントに電力上限を設定できるかどうかを示します。
  - **Blade Power Map** – 「Blade Power Map」表は、Oracle CMM にのみ利用でき、ブレードサーバーに付与されている総ワット数と、ブレードサーバーへの付与要求のうち満たされていない総ワット数を示します。
- 管理対象デバイスの電力割り当ては、Web インタフェース、CLI、または SNMP インタフェースから表示できます。SNMP クライアントからこのタスクを実行する手順については、これらの手順のあとの「関連情報」セクションを参照してください。

Web インタフェースまたは CLI から管理対象デバイスの電力割り当てをモニターするには、次のいずれかの手順を実行します。

- 電力割り当てを表示する - Web による手順 1
- 電力割り当てを表示する - CLI による手順 2

#### 1. 電力割り当てを表示する - Web による手順

- a. Oracle ILOM SP の Web インタフェースで、「Power Management」>「Allocations」をクリックします。
- b. 「Power Allocation Plan」ページで、管理対象デバイスに表示される電力割り当て要件を表示します。

#### 2. 電力割り当てを表示する - CLI による手順

- a. 管理対象デバイスに割り当てられた電力の合計を表示するには、次のいずれかを実行します:

- サーバー SP から、次のように入力します:

```
show /SP/powermgmt/budget
```

- CMM から、次のように入力します:

```
show /CMM/powermgmt grantable_power
```

- または -

ブレードスロットに割り当てられている電力の合計を表示するには、次のように入力します:

```
show /CMM/powermgmt allocated_power
```

- b. 管理対象デバイスのコンポーネント (ファン、CPU など) に割り当てられた電力ワット数を表示するには、次のいずれかを実行します:

- サーバー SP から、次のように入力します:

```
show /SP/powermgmt/powerconf/component_type/component_name
```

- CMM から、次のように入力します:

```
show /CMM/powermgmt/powerconf/component_type/component_name
```

- または -



すべてのブレードスロットに付与されている電力の合計 (またはすべての自動送電 I/O ブレードスロットに予約された電力の合計) を表示するには、次のように入力します:

```
show /CMM/powermgmt/powerconf/bladeslots
```

- または -

個々のブレードサーバーに付与されている電力の合計を表示するには、次のように入力します:

```
show /CMM/powermgmt/powerconf/bladeslot/BLn
```

*component\_type* はコンポーネントカテゴリの名前、*component\_name* はコンポーネントの名前、*n* はブレードスロットの番号です。

## 関連情報

- [「View the Power Allocation Plan for a Managed Device」](#) in 『Oracle ILOM User's Guide for System Monitoring and Diagnostics Firmware Release 3.2.x』
- [「Power Consumption Terminology and Properties」](#) in 『Oracle ILOM User's Guide for System Monitoring and Diagnostics Firmware Release 3.2.x』
- [「Monitoring the Power Consumption Interfaces \(SNMP\)」](#) in 『Oracle ILOM Protocol Management Reference for SNMP and IPMI Firmware Release 3.2.x』

## ▼ SPARC の電力管理ポリシーを設定する

### 始める前に

- *disabled* 電力ポリシーを使用すると、SPARC サーバーは許可されている使用可能なすべての電力を消費し、最高速度で動作できます。
- *performance* 電力ポリシーを使用すると、システム内の未使用のアイドルコンポーネントがより低速で動作するか、またはスリープ状態に移行できるため、パフォーマンスにほとんど影響を与えずに電力を節約できます。
- *elastic* 電力ポリシーを使用すると、SPARC サーバーはコンポーネントの現在の電源要件に適応できます。

たとえば、*elastic* 電力ポリシーが有効になっていると、Oracle ILOM はサーバーコンポーネントを低速またはスリープ状態に移行したり、その状態から解除したりすることによって、相対的な電力使用率を (サーバーのワークロードが変動した場合でも) 常に 70% に維持します。

- SPARC サーバーの電力ポリシー設定を変更するには、Oracle ILOM の Administrator (a) 役割権限が必要です。

- SPARC サーバーの電力ポリシーは、Web インタフェース、CLI、または SNMP インタフェースから管理できます。SNMP クライアントからこれらのタスクを実行する手順については、これらの手順のあとの「関連情報」セクションを参照してください。

CLI または Web インタフェースから SPARC サーバーの電力ポリシーを設定するには、次の手順のいずれかを実行します。

- SPARC の電力ポリシーを設定する - Web による手順 1
- SPARC の電力ポリシーを設定する - CLI による手順 2

## 1. SPARC の電力ポリシーを変更する - Web による手順

- SPARC サーバー SP Web インタフェースから電力ポリシープロパティを表示するには、「Power Management」>「Settings」をクリックします。  
「Power Management」ページが表示されます。
- SPARC 管理対象デバイスの電力ポリシーで設定されているプロパティ値を変更するには、*Performance*、*Elastic*、または *Disabled* のいずれかのオプションを選択します。
- 「Save」をクリックして、「Power Policy」設定を保存します。

## 2. SPARC の電力ポリシーを変更する - CLI による手順

- SPARC サーバー SP CLI から電力ポリシープロパティを表示するには、次のように入力します。  

```
-> show /SP/powermgmt policy
```
- SPARC サーバーの電力ポリシーに設定されているプロパティ値を変更するには、次のように入力します。  

```
-> set /SP/powermgmt policy=performance|elastic
```

*performance|elastic* の値が表示されたら、*performance*、*elastic*、または *disabled* のいずれかを入力します。

プロンプトが表示されたら、アクションを確定する場合は **y** と入力し、アクションを取り消す場合は **n** と入力します。

## 関連情報

- 「Setting System Management Power Source Policies」 in 『Oracle ILOM Administrator’s Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』
- 「Power Consumption Terminology and Properties」 in 『Oracle ILOM User’s Guide for System Monitoring and Diagnostics Firmware Release 3.2.x』

- 「Maintaining System Power Policy (SNMP)」 in 『Oracle ILOM Protocol Management Reference for SNMP and IPMI Firmware Release 3.2.x』

## ▼ 消費電力の統計と履歴を表示する

### 始める前に

- Oracle ILOM の電力統計には、15、30、60 秒間隔で管理対象デバイスの直近の電力使用率が表示されます。管理対象デバイスの電力使用量 (ワット数) のピーク時の日時も表示されます。
- Oracle ILOM の電力履歴には、管理対象デバイスの最後の 1 時間または 14 日間の最小、平均、および最大電力使用率が表示されます。管理対象デバイスの電力使用量 (ワット数) のピーク時の日時も表示されます。
- Oracle ILOM の消費電力統計および履歴データは、サーバー SP Web インタフェース、CMM Web インタフェース、および CMM CLI から表示できます。これらはサーバー SP CLI からは表示できません。

Web インタフェースまたは CLI から管理対象デバイスの消費電力統計および履歴を表示するには、次のいずれかの手順を実行します:

- 電力統計および履歴を表示する - Web による手順 1
- 電力統計および履歴を表示する - CLI による手順 2

### 1. 電力統計および履歴を表示する - Web による手順

- a. SP または CMM Web インタフェースから消費電力統計を表示するには、「Power Management」>「Statistics」をクリックします。

管理対象デバイスの電力使用統計が 15、30、60 秒間隔で表示されます。

また、CMM 電力統計表示の場合のみ、シャーシ電力使用率とブレードサーバー電力使用率の間で表示を切り替えることができます。

- b. SP または CMM Web インタフェースから電力履歴を表示するには、「Power Management」>「History」をクリックします。

管理対象デバイスの最小、平均、および最大電力使用率の電力履歴が表示されます。

1 時間と 14 日間の間で表示を切り替えることができます。

CMM 電力履歴表示の場合のみ、シャーシ電力使用率とブレードサーバー電力使用率の間で表示を切り替えることができます。

### 2. 電力統計および履歴を表示する - CLI による手順

- a. CMM CLI から電力統計を表示するには、次のいずれかを入力します:

```
show /CH/VPS/history
```

```
show /CH/VPS/history/0/list
```

- b. CMM CLI から電力履歴を表示するには、次のように入力します。

```
show /CH/VPS/history/1/List
```

### 関連情報

- 「Analyzing Power Usage Statistics」 in 『Oracle ILOM User's Guide for System Monitoring and Diagnostics Firmware Release 3.2.x』

## 通常の保守タスク

- 36 ページの「管理対象デバイスのシステム情報を収集する」
- 37 ページの「[Locator]LED を使用して管理対象デバイスを探す」
- 38 ページの「管理対象デバイスの電源状態を変更する」
- 40 ページの「管理対象デバイスの Oracle ILOM をリセットする」
- 41 ページの「管理対象デバイスのファームウェアを更新する」
- 43 ページの「リモートシリアルコンソールからホスト OS にログインする」

### ▼ 管理対象デバイスのシステム情報を収集する

管理対象デバイスのシステム情報 (パーツ番号、シリアル番号、システムステータス、ファームウェアバージョンなど) を収集するために、CLI または Web インタフェースを使用できます。

- 管理対象デバイスのシステム情報を収集する - Web による手順 1
- 管理対象デバイスのシステム情報を収集する - CLI による手順 2

#### 1. システム情報を収集する - Web による手順

- a. SP または CMM Web インタフェースで、「System」 > 「Summary」をクリックします。  
「Summary」ページが表示されます。
- b. 「General Information」表で、パーツ番号、シリアル番号、およびファームウェアバージョンのプロパティ値を検索して記録します。
- c. 「Status」表の上部で、「Overall Status」に表示されているステータスの状態と「Total Problem Count」に表示されている値を検索して記録します。

## 2. システム情報を収集する - CLI による手順

- SP または CMM CLI で管理対象デバイスの健全性の状態、健全性の詳細、パーツ番号、シリアル番号、またはファームウェアバージョンを表示するには、次のように入力します。

```
show /System
```

---

注記 - 一部の Oracle サーバーおよびブレードシャーシシステムでは、レガシー Oracle ILOM 3.0 CLI /SYS ターゲットを使用して、健全性ステータス、パーツ番号、シリアル番号、およびファームウェアバージョンを表示することもできます。

---

### 関連情報

- [23 ページの「システムステータスをチェックして未解決の問題を表示する」](#)
- [24 ページの「障害メッセージを手動でクリアする」](#)
- [27 ページの「システム、イベント、および監査ログエントリを管理する」](#)

## ▼ 「Locator」LED を使用して管理対象デバイスを探す

### 始める前に

- Oracle ILOM で「Locator」インジケータ設定を変更するには、User Management (u) 役割権限が必要です。
- 管理対象デバイスの「Locator」LED は通常、デバイスのフロントパネルとバックパネルの両方にあります。

データセンター内の多くのサーバーや CMM から Oracle サーバーまたは CMM を探すには、Oracle ILOM CLI または Web インタフェースから管理対象デバイスの「Locator」LED を点灯できます。

- 「Locator」インジケータの状態を変更する - Web による手順 1
- 「Locator」インジケータの状態を変更する - CLI による手順 2

### 1. 「Locator」インジケータの状態を変更する - Web による手順

- a. SP または CMM の Web インタフェースで、「System Information」 > 「Summary」をクリックします。

「Summary」ページが表示されます。

- b. 管理対象デバイスの「Locator」LED をオンまたはオフにするには、「Actions」パネルの「Locator Indicator」ボタンをクリックします。

操作を確定を求めるメッセージが表示されます。

- c. 操作を確定するために、進む場合は「Yes」をクリックし、取り消す場合は「No」をクリックします。  
Oracle ILOM が、「Actions」パネルの「Locator Indicator」プロパティの状態を更新します。

## 2. 「Locator」インジケータの状態を変更する - CLI による手順

- サーバー SP または CMM から「Locator」LED を点灯させるには、次のように入力します:  
-> `set /System/LOCATE value=fast_blink`  
操作を確定する場合は **y** と入力し、操作を取り消す場合は **n** と入力します。
- サーバー SP または CMM から「Locator」LED を無効にするには、次のように入力します:  
-> `set /System/LOCATE value=off`  
操作を確定する場合は **y** と入力し、操作を取り消す場合は **n** と入力します。

### 関連情報

- [「Troubleshooting Oracle ILOM Managed Devices」](#) in 『Oracle ILOM User's Guide for System Monitoring and Diagnostics Firmware Release 3.2.x』
- [「SNMP Overview」](#) in 『Oracle ILOM Protocol Management Reference for SNMP and IPMI Firmware Release 3.2.x』

## ▼ 管理対象デバイスの電源状態を変更する

### 始める前に

- 管理対象デバイスの電源状態を変更するには、Admin (a) 役割権限が必要です。

サーバー SP または CMM の電源状態を変更するには、Oracle ILOM CLI または Web インタフェースを使用できます。

- 管理対象デバイスの電源状態を変更する - Web による手順 1。
- 管理対象デバイスの電源状態を変更する - CLI による手順 2。

### 1. 管理対象デバイスの電源状態を変更する - Web による手順

- a. SP または CMM Web インタフェースで、「Host Management」->「Power Control」をクリックします。  
「Power Control」ページが表示されます。

---

注記 - CMM の場合のみ、「Remote Power Control」テーブルに一覧表示されているシャーシデバイスの横にあるラジオボタンをクリックします。

---

b. 管理対象デバイスの電源状態を設定するには、次のオプションのいずれかを選択します。

- **Reset** – この SP 固有オプションは、システムコンポーネント (ディスクドライブなど) に供給される電力を維持しながら、管理対象サーバーの電源を再投入します。
- **Graceful Reset** – この SPARC SP 固有オプションは、ホスト OS を正常にシャットダウンしてから、管理対象 SPARC サーバーの電源を再投入します。
- **Immediate Power Off** – このオプションは管理対象デバイスの電源をただちに切断します。
- **Graceful Shutdown and Power Off** – このオプションは、OS の電源を正常に切断してから、管理対象デバイスの電源を切断します。
- **Power On (デフォルト設定)** – このオプションは管理対象デバイスの電源を完全に投入します。
- **Power Cycle** – このオプションは管理対象デバイスの電源を切断してから、管理対象デバイスの電源を完全に投入します。

## 2. 管理対象デバイスの電源状態を変更する - CLI による手順

SP または CMM CLI から管理対象デバイスの電源状態を設定するには、次のいずれかのアクションを実行します。

- **Reset** – システムコンポーネント (ディスクドライブなど) に供給される電力を維持しながら、管理対象 x86 サーバーまたはブレードシステムシャーシの電源を再投入するには、次のように入力します。

```
reset /System
```

管理対象 SPARC サーバーの電源を再投入するには、次のように入力します。

```
reset -force /System
```

- **Graceful Reset (SPARC SP のみ)** – ホストオペレーティングシステムの電源を正常にシャットダウンしてから SPARC サーバーの電源を再投入するには、次のように入力します。

```
reset /System
```

- **Immediate Power Off** – 管理対象サーバーまたはブレードシステムシャーシの電源をただちに切断するには、次のように入力します。

```
stop -force /System
```

- Graceful Shutdown and Power Off – OS を正常にシャットダウンしてから管理対象サーバーまたはブレードシステムシャーシの電源を切断するには、次のように入力します。

```
stop /System
```

- Power On (デフォルト設定) – 管理対象サーバーまたはブレードシステムシャーシの電源を完全に投入するには、次のように入力します。

```
start /System
```

## 関連情報

- [「Setting CMM Power Grant and SP Power Limit Properties」](#) in 『Oracle ILOM Administrator’s Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』
- [「Monitor and Manage System Power \(SNMP\)」](#) in 『Oracle ILOM Protocol Management Reference for SNMP and IPMI Firmware Release 3.2.x』

## ▼ 管理対象デバイスの Oracle ILOM をリセットする

### 始める前に

- サーバー SP または CMM で Oracle ILOM をリセットするには、Reset and Host Control (r) 権限が必要です。
- 管理対象デバイスの Oracle ILOM をリセットしても、オペレーティングシステムには影響しません。
- サーバー SP または CMM で Oracle ILOM をリセットすると、現在の Oracle ILOM セッションが切断され、リセット処理が完了するまで管理接続が管理不可能になります。

CLI または Web インタフェースを使用して、SP または CMM の Oracle ILOM をリセットできます。

- Oracle ILOM SP または CMM をリセットする - Web による手順 1
- Oracle ILOM SP または CMM をリセットする - CLI による手順 2

### 1. Oracle ILOM SP または CMM をリセットする - Web による手順

サーバー SP または CMM Web インタフェースから Oracle ILOM をリセットするには、次のいずれかを実行します:

- サーバー SP の場合、「System Information」>「Maintenance」>「Reset SP」をクリックし、「Reset」ボタンをクリックします。



- CMM の場合、「System Information」 > 「Maintenance」 > 「Reset Components」をクリックし、表から適切なシャーシコンポーネントを選択して「Reset」ボタンをクリックします。

## 2. Oracle ILOM SP または CMM をリセットする - CLI による手順

Oracle ILOM サーバー SP、CMM、またはブレード SP をリセットするには、次のいずれかを入力します。

```
reset /SP
```

```
reset /CMM
```

```
reset /Servers/Blades/BLn/SP
```

### 関連情報

- [「Reset Power to Service Processor or Chassis Monitoring Module」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』](#)

## ▼ 管理対象デバイスのファームウェアを更新する

### 始める前に

- プラットフォームが必要とする場合は、サーバー SP のファームウェアイメージを更新する前に、ホストオペレーティングシステムをシャットダウンします。
- Oracle サーバー SP または CMM のファームウェアを更新するには、Admin (a) 役割権限が必要です。
- ファームウェア更新処理は、Web インタフェース、CLI、または SNMP クライアントから開始できます。

このセクションの手順では、Web インタフェースおよび CLI からファームウェア更新処理を開始する方法について説明します。SNMP クライアントを使用してこのタスクを実行する方法、またはモジュラーシャーシシステムのファームウェア更新を管理する方法については、これらの手順のあとの「関連情報」セクションを参照してください。

- ファームウェア更新処理の完了には、数分かかります。この間、ほかの Oracle ILOM タスクを実行しないでください。ファームウェア更新が完了すると、システムがリブートします。

SP または CMM の CLI または Web インタフェースからファームウェア更新処理を開始するには:

1. サーバー SP または CMM にインストールされている現在のファームウェアバージョンを判定します。

- Web インタフェースの場合、「System Information」>「Summary」をクリックし、「General Information」表の「System Firmware Version」のプロパティ値を表示します。
- CLI の場合、コマンドプロンプトで `version` と入力します。

ファームウェアバージョンを識別するために使用される番号スキームについては、『Oracle ILOM 機能更新およびリリースノートファームウェア Release 3.2.x』を参照してください。

2. **新しい Web ブラウザタブまたはウィンドウを開き、次のサイトに移動して Oracle ILOM ファームウェアイメージをダウンロードします。**

<http://support.oracle.com/>

My Oracle Support Web サイトからソフトウェア更新をダウンロードする詳細な手順については、『Oracle ILOM 機能更新およびリリースノート』を参照してください。

---

**注記** - 管理対象デバイスのシステムファームウェアイメージを以前のファームウェアリリースに更新することは推奨されません。ただし、以前のファームウェアリリースが必要な場合、Oracle ILOM はダウンロードサイトから入手できる以前のファームウェアリリースへのファームウェア更新処理をサポートします。

---

3. **TFTP、FTP、HTTP、HTTPS プロトコルのいずれかをサポートするサーバーにファームウェアイメージを配置します。**

- Web インタフェースでファームウェアを更新する場合は、Oracle ILOM Web ブラウザが動作しているシステムにイメージをコピーします。
- CLI でファームウェアを更新する場合は、ネットワークからアクセスできるサーバーにイメージをコピーします。

4. **SP または CMM Web インタフェースから Oracle ILOM ファームウェアイメージを更新するには、「ILOM Administration」>「Maintenance」>「Firmware Upgrade」をクリックし、「Enter Upgrade Mode」をクリックします。**

ファームウェア更新ダイアログの使用の詳細な手順については、『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』を参照してください。

5. **Oracle ILOM サーバー SP または CMM CLI から Oracle ILOM ファームウェアイメージを更新するには、次のように入力します。**

-> `load -source supported_protocol://server_ip/path_to_firmware_image/ filename.xxx`

CLI ファームウェア更新プロンプトの使用の詳細な手順については、『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』を参照してください。

6. **システムのレポート後に、適切なファームウェアバージョンがインストールされたことを確認してください。**

## 関連情報

- 「Update the Server SP or CMM Firmware Image」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』
- 「Update Blade Chassis Component Firmware Images」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』
- 「Manage Oracle ILOM Firmware Updates (SNMP)」 in 『Oracle ILOM Protocol Management Reference for SNMP and IPMI Firmware Release 3.2.x』

## ▼ リモートシリアルコンソールからホスト OS にログインする

### 始める前に

- Oracle ILOM CLI からリモートシリアルコンソールを起動するには、console (c) 権限が必要です。さらに、ホストサーバーのオペレーティングシステムにアクセスするにはユーザー資格も必要です。
- ホストサーバーの電源状態は電源が入っている必要があります。

Oracle ILOM SP CLI からホストサーバーのオペレーティングシステム (OS) にログインするには:

#### 1. 次を入力します:

```
start /host/console
```

ユーザー資格を指定するように促すメッセージが表示されます。

#### 2. ホストサーバー OS へのアクセスに必要なユーザー資格を入力します。

これで、リモートシリアルコンソールを介してホストサーバー OS にログインしました。

---

**注記** - 標準の Oracle ILOM CLI コマンドを実行するには、まずリモートシリアルコンソールを終了する必要があります。

---

#### 3. リモートシリアルコンソールを終了するには、ESC キーと ( キーを押します。

## 関連情報

- 21 ページの「リモート KVMS を使用してソフトウェアをインストールする」
- 38 ページの「管理対象デバイスの電源状態を変更する」
- 「Using Remote KVMS Consoles for Host Server Redirection」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』

## 初期設定の FAQ

**質問:** Oracle ILOM サービスプロセッサ (SP) は自動的にブートしますか。

**回答:** Oracle ILOM サービスプロセッサは、電源ケーブルが Oracle サーバーまたはブレードシャーシシステムに接続されたときに自動的にブートします。電源ケーブルをシステムシャーシまたはラックマウントサーバーに接続する方法の詳細は、ラックマウントサーバーまたはシステムシャーシに付属しているハードウェア設置ドキュメントを参照してください。

**質問:** シリアルコンソールまたは端末を管理対象デバイスに接続するためのドキュメントはどこにありますか。

**回答:** Oracle サーバーまたはブレードシャーシのハードウェア設置ガイドを参照してください。

**質問:** Oracle ILOM に root アカウントはありますか。

**回答:** Oracle ILOM は、事前構成済み root アカウント付きで工場から出荷されます。最初のログインおよびユーザーアカウントの最初のセットアップには、事前構成済み root アカウントを使用することをお勧めします。

管理対象デバイスへの承認されていないアクセスを防止するために、各サービスプロセッサ (SP) またはシャーシモニタリングモジュール (CMM) で事前構成済み root アカウント (ログイン: **root** パスワード: **changeme**) を変更することをお勧めします。

**質問:** Oracle ILOM で受け入れられる IPv4 および IPv6 ネットワークアドレスはどのような形式ですか。

**回答:** Oracle ILOM がデュアルスタックネットワーク環境で動作している場合は、IPv4 または IPv6 アドレス形式を使用して IP アドレスを入力できます。

例:

- IPv4 形式: 10.8.183.106
- IPv6 形式: fec0:a:8:b7:214:4fff:5eca:5f7e/64

**質問:** Oracle ILOM に出荷時のデフォルト設定はありますか。

**回答:** ほとんどの Oracle ILOM システム管理機能に出荷時のデフォルト設定があります。これらのデフォルト設定を使用するか、要件に合わせてカスタマイズできます。Oracle ILOM に標準装備されている出荷時のデフォルト設定の一覧については、[9 ページの「出荷時のデフォルト設定」](#)を参照してください。

**質問:** どの Oracle ILOM ユーザーインターフェースを使用したらよいですか。

**回答:** ほとんどすべての Oracle ILOM 機能は、Web インタフェースとコマンド行インタフェース (CLI) の両方から使用できます。Oracle ILOM 機能の一部は、SNMP インタフェースおよび IPMI インタフェースからも使用できます。SNMP および IPMI

からサポートされる Oracle ILOM 機能の詳細は、『Oracle ILOM プロトコル管理リファレンス』を参照してください。

**質問:** Oracle ILOM へのネットワーク管理接続を確立できません。

**回答:** Oracle ILOM に対する接続に問題が発生している場合、接続の問題を解決するには、次の推奨される解決案を参照してください。

- 使用しているネットワークと Oracle サーバーまたはブレードシャーシ上の NET MGT ポートとの間に、物理的なイーサネット接続が確立していることを検証します。
- Oracle ILOM に対するローカル (ネットワークを介さない) 接続で、デュアルスタックネットワーク環境について、IPv4 の状態が有効か、IPv4 および IPv6 の両方の状態が有効かを確認します。
- Ping のようなコマンド行ネットワークツールを使用して、ネットワークへの接続を検証します。
- IPv6 管理接続の場合、URL 内の IPv6 アドレスが角括弧で囲まれていることを確認します。

例:

- Web インタフェースの URL 形式:

`https://[fe80::221:28ff:fe77:1402]`

- CLI ダウンロードファイルの URL 形式:

`-> load -source tftp://[fec0:a:8:b7:214:rfff:fe01:851d]desktop.pkg`

**質問:** root アカウントを誤って事前に削除した場合、どのようにして再作成できますか。

**回答:** Oracle ILOM の「Preboot」メニューを使用して、Oracle の x86 サーバーで用意されている Oracle ILOM root アカウントを回復できます。手順については、『x86 サーバー向けの診断ガイド』を参照してください。

SP または CMM を出荷時デフォルトにリセットすることで、サーバー SP または CMM の Oracle ILOM root アカウントを回復することもできます。Web インタフェースで、「ILOM Administration」>「Configuration Management」>「Reset Defaults」をクリックします。デフォルトを出荷時にリセットすると、すべてのログファイルが削除され、すべての構成プロパティがデフォルト値に戻ります。

Oracle ILOM で用意されている root アカウントの回復についての詳細は、Oracle の保守担当者にお問い合わせください。

**質問:** Oracle ILOM にはどのような最新機能がありますか。

**回答:** 『Oracle ILOM 機能更新およびリリースノート』には、各 Oracle ILOM ファームウェアリリースについて新しい機能が説明されています。

